

商店街活動の連鎖的展開における Affiliation-Network の構造的特徴

—岐阜市中心市街地の商店街を対象として—

岐阜大学大学院 学生会員 ○堀口拓治

岐阜大学 正会員 出村嘉史

1. 研究の背景と目的

健全な商店街では、人的つながりを基盤として、次々と取り組みを創出すると考えられる。持続可能で活力ある商店街をつくりあげる為の本質的な情報の一つとして、連鎖的に取り組みを発生させる状況を、人的つながりの変化から明らかにすることが本研究の目的である。

商店街内の取り組みは、個人が組織へ所属し組織を通じて行われる。取り組みを機に、個人は別の新規組織を設立し取り組みを行うことで人的つながりは変化すると考えられる。本研究で用いる社会ネットワーク分析 (SNA) は、人的つながりなどの構造をグラフ理論によって定量化し、構成要素間の関係構造を分析する手法である。個人が組織に所属し活動する状況で次々と新しい取り組みが展開される要因は、個人と組織とのつながりの中にあると考えられ、人的つながりの変化を記述するには、個人と組織の相互依存関係を考慮した Affiliation-Network モデルによる SNA が適していると考えた。本研究は、近年既存商店主と新規参入者が協力し次々と賑わいを創出する動きが見られる岐阜市柳ヶ瀬及び美殿町商店街を対象とし、研究対象地における過去 20 年間の情報を調査し、Affiliation-Network の変遷を分析した。

2. 研究方法

(1) Affiliation-Network の把握

商店街の取り組みにおいては、主体的に取り組む人物が複数おり、彼らの協同によって取り組みが実施されると考えられる。商店街組合や取り組みの運営委員会などを「組織」と捉えると、この状況は個人と組織で構成される Affiliation-Network で表現できる。本研究では、主体的に取り組む個人を当事者と定義し、当事者の所属情報を彼らへのヒアリング調査から把握した。その結果把握された取り組みの動向を Affiliation-Network として整理した。

予備調査では、美殿町商店街の過去約 20 年の取り組みを把握し、現在商店街組合の理事長 (Smi) にヒアリング調査を行った。調査では、いつどのように商店街の取

り組みに関わり始めたか、取り組みを実施する組織のメンバーを本人が記憶する範囲内で挙げてもらった。調査後、挙げられた取り組みを時系列で整理し、組織の設立及び取り組みの発生に着目しフェーズ分類を行った。このフェーズ分類をもとに、再度対象者に調査し、対象者から見て他の当事者と思われる人物を挙げてもらった。

本調査では、予備調査で挙げられた当事者に対し同様にヒアリングを実施し、新たに当事者の名前が出なくなるまでヒアリング調査及びフェーズ分類を実施した。商店街には、取り組みに関わる個人の他に、組織に名前だけあり取り組みに殆ど参加しない個人が存在する。相互に認証する当事者をリストアップする方法により、Affiliation-Network から取り組みに殆ど無関係な個人と組織を排除し、どの個人と組織が取り組みの発生及び継続に関与していたかに焦点を絞ることができると考えた。

次にヒアリングから得られた個人の所属情報から、SNA 用のソフトウェアである UCINET と NetDraw を用いて各フェーズの Affiliation-Network を可視化した。

(2) 媒介中心性を用いた分析

一般に、幾つかの組織で同じメンバーが顔を合わせることはよくある。この場合、個人及び組織の中でクリークが形成され、クリーク内では冗長な情報が多くもたらされると考えられる。一方で、異なるクリークにつながりを持ち、自ら所属するクリークに対し冗長でない情報を収集する役割を担う個人及び組織がいることも考えられる。この個人及び組織を特定する為に、本研究では、各ノードの媒介的な役割を果たす度合いを測定する媒介中心性を用いた分析を行った。

商店街活動において所属組織の運営や組織間の情報伝達などは個人間の連携によって行われると考えられる。本研究では、Borgatti¹⁾らが導出した媒介中心性において、測地線の数え上げの対象を個人一人のみとする改良を行った。数え上げた測地線をもとに、始終点間にある各個人及び各組織の媒介中心性を算出した。

一連の顛末を観察する中で、連続的に発生する取り組みによって人的つながりが変化する他に、個人および組

織の影響力が変化するように思われた。複数のクリークへのつながりを持つノードは、新しい取り組みを生み出す可能性が高くなる他に、発生した取り組みによって周囲のつながりが緊密になるほど、そのノードは媒介中心性を低減させ、そのノードが持つ影響力が低下すると考えられる。連鎖的に取り組みが展開される状況で、構造的に優位な立場に位置する個人及び組織の変化を追跡するために、各フェーズ個人及び組織が示す媒介中心性の変動を確認した。

3. 結果及び考察

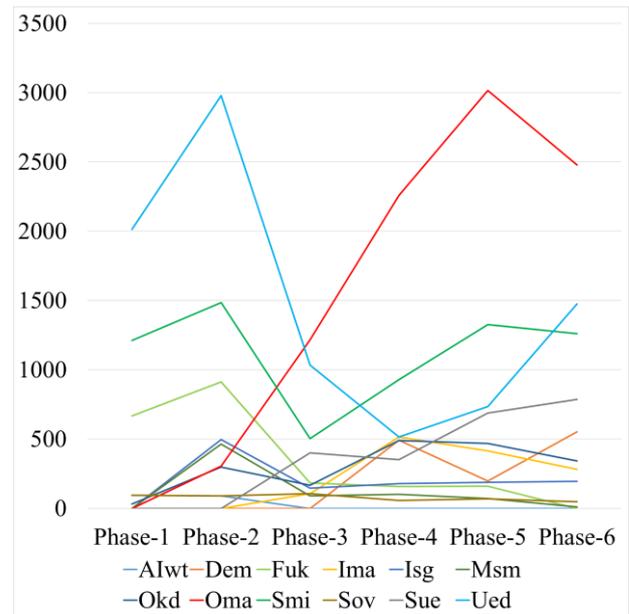
各フェーズ個人及び組織の媒介中心性の変動から、2つの特徴が確認できる。1つ目は、Phase-2~3において、Smi や Ued, Fuk の媒介中心性が著しく減少し、Oma の媒介中心性が急激に増加している。同時に、Smi ら3人が所属する組織 G-style・Jurassic においても媒介中心性が減少する現象が確認できる。もう一つは、Phase-3以降 Oma が高い媒介中心性を示している (表-1 参照)。

この現象に関して、Affiliation-Network から以下の点が確認できた。Phase-2 では、柳ヶ瀬の Ued 及び美殿町の Smi らは商店街組合に所属すると共に、商店街組合に属さない新規参入者中心の組織 (G-style, Jurassic) にも所属していた。Phase-3 以降では、Oma が柳ヶ瀬及び美殿町商店街に属し、これまでの直接的なつながりがなかった両商店街をつなぐ位置にすることが確認できる。

ヒアリング結果から、実際の出来事を整理すると、Phase-2 では Smi と Ued らは組織 G-style での活動、Ued と Oma は組織 Jurassic での活動を通じて知り合い、柳ヶ瀬で空きビルの活用を考えていた Oma が Ued に相談した際に、空きビル活用で悩む Smi を紹介された。Phase-3 では、Oma は美殿町で Smi ら店主の協力の下で空きビルの活用を実施した。現在、Oma は両商店街に属し、店主らの協力の下で様々な取り組みを展開している。

組織は、活動を通じて個人同士のつながりを形成させ、このつながりを持つ個人同士で考えを共有し新しいアイデアを生み出す場として役割を担っていた。また、媒介中心性が高い個人は、様々な個人から情報を優位に収集出来るだけでなく、これまでつながりが無かった同じ考えを持つ個人同士をつなぐ触媒としての役割を担っていたと考えられる。つまり、媒介中心性が高い個人及び組織において値が急激に減少した要因は、異なるクリークに属する個人同士をつなぐ触媒としての役割を果たし、

表-1 各フェーズ媒介中心性上位5名に入った個人の媒介中心性の変動



後に新規組織が設立され取り組みが実施されたことによるものと考えられる。

一方、Oma のように高い媒介中心性維持し続ける要因は、Oma が両地区の商店街組合に所属し店主らとのつながり維持し続け、店主らと共に新規参入者と様々な新規組織による取り組みを実施することによるものと考えられる。Oma は、様々なクリークとつながり、クリーク内の情報や人材などの資源を用いて商店街組合など既存組織を改善する他に、新規組織をつくり連鎖的に取り組みを展開していると考えられる。

4. おわりに

本研究では、連鎖的に取り組みが展開される要因を Affiliation-Network の変遷から明らかにした。媒介中心性が高い個人は、異なるクリークに属する個人らと新規組織を設立し取り組みを実施する他に、互いに異なるクリーク内に属する同じ考えを持つ個人同士をつなぎ新しい取り組みを創出する触媒としての役割を担う。連鎖的に取り組みが展開されるには、個人が異なるクリークとつながる他に、先述した触媒としての役割を高い媒介中心性を示す個人が果たした後、別の高い媒介中心性を示す個人によって、新たに異なるクリークとつながり取り組みを創出することが重要である。

参考文献

- 1) Borgatti, S. P. and Everett, M. G.: Network analysis of 2-mode data, *Social Networks* 19, 243-269, 1997.